

STOP 糖尿病

糖尿病合併症 し・め・じの「目」!

糖尿病は、高血糖が持続する事で血管の障害を受けやすく、細い毛細血管ほど傷つきやすいです。網膜の血管は大変細いため、徐々に血管がつまったり、変形したり、出血を繰り返すようになります。これが糖尿病性網膜症です。進行の度合いによって大きく3段階に分類されています。目の中で網膜症が進んでいても、**自覚症状は乏しい**状態です。増殖網膜症の末期になり失明が近くなった時に、症状を感じるようになることが多いようです。



【よくある糖尿病の患者の眼】

- ◎白内障：ほとんどが老人性白内障ですが、糖尿病がある場合は加齢現象よりも早く白内障が出現します。
- ◎緑内障：網膜の酸欠、栄養欠乏により新生血管が出現。この場合の新生血管は、出血しやすいだけでなく隅角(房水を排出するところ)を閉塞させ、眼圧の上昇を招き、血管新生緑内障を発症させます。点眼や内服では治療は難しく、手術でも対処できない事があります。
- ◎飛蚊症：視野の中に煙の朧のようなものや、蚊のような小さな虫が飛んでいるように見える。網膜で出血が起こると、視野に黒いカーテンがかかったような感じがすると表現する方もいます。
- ◎視力低下：「黄斑」に病変が及んだり、網膜剥離を起こすと急激に視力が低下します。

糖尿病性網膜症の**予防には血糖コントロール**が欠かせません。食事・運動・薬物療法で血糖コントロールを良好にすること、また**1年に1回は定期的な眼科受診**を勧めましょう。ただし、人間ドックで眼科健診を受けているとお話する方もいらっしゃいますが、糖尿病性網膜症を判断するには検査内容が不足しています。糖尿病の患者様には**健診とは別に眼科へ行くように説明**しましょう。ぜひその時は「糖尿病手帳」「糖尿病眼手帳」を持参するよう声かけてください。

